

法人番号	281017
プロジェクト番号	S1311048

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	行吉学園	大学名	神戸女子大学
研究プロジェクト名	日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

このプロジェクトは、本学古典芸能研究センターが所蔵する能・狂言、浄瑠璃、歌舞伎、民俗芸能、沖縄祭祀に関する貴重な資料を活用して、古典芸能の始原と変遷を解明するための研究拠点を形成することを目的としている。当センターは、所蔵する資料の貴重性と研究スタッフの潜在力において、この5年間の支援事業のプロジェクトを受けて計画的・重点的に研究基盤を整備していくことの意義は大きいと考えている。

具体的には、資料の整理と公開を進めるとともに、平成26年度以降、年1度の公開研究会を実施し、その成果を単行本および論文として刊行する。それによって、研究成果を関連研究者の間で共有できるようにし、研究拠点としての位置づけを高めていくことを目指す。また、公開研究会の時期に合わせて、古典芸能研究センターの展示室において関連資料の展示をおこなうことにより、資料の公開を進めていく。

国際化については、26年度と29年度の公開研究会を国際的なものとするとともに、研究者レベルでの国際的な研究交流のネットワーク作りを進めていく。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

まず、平成26年6月7日に神戸女子大学古典芸能研究センターリニューアル記念講演会「古典芸能研究の未来」を開催し、中世芸能、近世芸能、民俗芸能の三つの分野から講演をおこなった。この企画は、プロジェクトの全体的なコンセプトを示すものであった。

年度ごとの公開研究会については、第1回目は平成26年11月29日、30日の両日に国際シンポジウム「見つめる能面・能面を見つめる」を開催し、その成果を『能面を科学する—世界の仮面と演劇—』（勉誠出版、平成28年3月）という単行本の形で公刊した。また、この公開研究会にあわせて、古典芸能研究センター展示室において「仮面の芸能・人形の芸能」と題する特別展を開催し、国際化を意識して日本語・英語の両言語による展示解説文を作成した。第2回目は、平成27年11月28日に「説経節—情念の語り物—」と題する公開研究会を実施した。あわせて、「説経『おぐり』の世界—説経節の広がり—」という企画展を古典芸能研究センター展示室において開催した。ここでは当センター所蔵の志水文庫の資料も活用した。さらに、古典芸能研究センター特別講座においても「説経節—人は神仏に何を托そうとするのか—」と題する6週連続の講座を平成27年10月から11月にかけて実施した。成果刊行物については、平成29年2月の刊行に向けて準備中である。

あわせて、所蔵資料（伊藤正義文庫、志水文庫、かしら文庫）の整理、デジタル化、そしてWEB上での公開の作業を進めている。また、ハワイ、ヨーロッパ、東アジアの大学・博物館・研究所等と研究上の連携を進めている。

法人番号	281017
プロジェクト番号	S1311048

研究者名	所属・職	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
【学外】			
大谷 節子	古典芸能研究センター客員研究員 成城大学文学部・教授	古典芸能の始原と変遷の解明	中世芸能研究(統括)
天野 文雄	古典芸能研究センター客員研究員 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター・所長 大阪大学・名誉教授	古典芸能の始原と変遷の解明	能楽史研究
小林 健二	古典芸能研究センター客員研究員 国文学研究資料館・教授	古典芸能の始原と変遷の解明	能・狂言研究
関屋 俊彦	古典芸能研究センター客員研究員 関西大学文学部・特任教授	古典芸能の始原と変遷の解明	狂言研究
宮本 圭造	古典芸能研究センター客員研究員 法政大学能楽研究所・教授	古典芸能の始原と変遷の解明	能楽史研究
阿部 泰郎	古典芸能研究センター客員研究員 名古屋大学大学院文学研究科・教授	古典芸能の始原と変遷の解明	中世芸能・中世文化史研究
川崎 剛志	古典芸能研究センター客員研究員 就美大学人文学部・教授	古典芸能の始原と変遷の解明	中世芸能・中世文学研究
恵阪 悟	帝塚山大学文学部・専任講師	古典芸能の始原と変遷の解明	謡・能番組整理
阪口 弘之	古典芸能研究センター特別客員研究員 神戸女子大学・名誉教授	都市芸能としての浄瑠璃・歌舞伎の特質解明	近世芸能研究(統括)
河合 眞澄	古典芸能研究センター客員研究員 大阪府立大学人間社会学部・教授	都市芸能としての浄瑠璃・歌舞伎の特質解明	近世芸能研究
林 久美子	古典芸能研究センター客員研究員 京都大学文学部・教授	都市芸能としての浄瑠璃・歌舞伎の特質解明	近世芸能研究
西岡 陽子	古典芸能研究センター客員研究員 大阪芸術大学芸術学部・教授	民俗芸能の歴史的変遷の研究	民俗芸能研究
高阪 薫	古典芸能研究センター客員研究員 元甲南大学・学長	民俗学的視点からの神事・祭礼の研究	沖縄祭祀研究
小栗栖 健治	古典芸能研究センター客員研究員 元兵庫県立歴史博物館・館長補佐	民俗芸能の歴史的変遷の研究	民俗芸能研究
久万田 晋	古典芸能研究センター客員研究員 沖縄県立芸術大学附属研究所・教授	民俗学的視点からの神事・祭礼の研究	沖縄祭祀研究
米田 雄介	古典芸能研究センター客員研究員 神戸女子大学・名誉教授	日中古代楽器の研究	国際的研究者ネットワークの形成

＜研究者の変更状況(研究代表者を含む)＞

旧	プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	古典芸能の始原と変遷の解明	古典芸能研究センター兼任研究員 神戸女子大学文学部・教授	大谷 節子	研究代表者
↓				
新	変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	古典芸能研究センター長 神戸女子大学文学部・教授	古典芸能研究センター長 神戸女子大学文学部・教授	川森 博司	研究代表者
旧	プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
↓				
新	変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	古典芸能研究センター非常勤研究員 京都造形芸術大学・非常勤講師	古典芸能研究センター非常勤 研究員 相愛高等学校・非常勤講師	長田 あかね	中世芸能研究
旧	プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
↓				
新	変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	名古屋大学大学院文学研究科・教授	古典芸能研究センター客員研究員 名古屋大学大学院文学研究科・教授	阿部 泰郎	中世芸能・中世文化史研究

法人番号	281017
プロジェクト番号	S1311048

旧	プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
↓				
新	変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	就実大学人文科学部表現文化学科・教授	古典芸能研究センター客員研究員 就実大学人文科学部表現文化学科・教授	川崎 剛志	中世芸能・中世文学研究
旧	プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
↓				
新	変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	園田学園女子大学近松研究所所長 園田学園女子大学・教授	古典芸能研究センター兼任研究員 神戸女子大学文学部・教授	井上 勝志	近世芸能研究
旧	プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
↓				
新	変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	兵庫県立歴史博物館・館長補佐	古典芸能研究センター客員研究員 元兵庫県立歴史博物館・館長補佐	小栗栖 健治	民俗芸能研究
旧	プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
↓				
新	変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	古典芸能研究センター客員研究員 沖縄県立芸術大学附属研究所・教授	左同	久万田 晋	沖縄祭祀研究
旧	プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	海外における古典芸能研究	神戸女子大学文学部・助教	中村 平	国際的研究者ネットワークの形成
↓				
新	変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	古典芸能研究センター兼任研究員 神戸女子大学文学部・教授	左同	海老 久人	国際的研究者ネットワークの形成

以上

(変更の時期:平成27年4月1日)

※別紙、平成27年4月30日付提出分 研究代表者変更関係届出書一式を添付する

「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」研究者変更・追加・辞退届

1 学校法人名 行吉学園 2 大学名 神戸女子大学3 選定年度 平成25年度 4 事業番号 S13110485 研究組織名 神戸女子大学古典芸能研究センター6 研究プロジェクト名 日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成

7 研究代表者

研究代表者名	所属・職名
大谷 節子	神戸女子大学文学部・教授

8 プロジェクト参加研究者数 21名

9 研究者の変更状況

	プロジェクトにおける研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトにおける役割
旧	古典芸能の始原と変遷の解明	古典芸能研究センター兼任研究員 神戸女子大学文学部・教授	大谷 節子	研究代表者



	変更(就任)前の所属・職名	変更後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトにおける役割
新	古典芸能研究センター長 神戸女子大学文学部・教授	古典芸能研究センター長 神戸女子大学文学部・教授	川森 博司	研究代表者

10 変更日 平成 27 年 4 月 1 日

11 変更理由

研究代表者 大谷節子の自己都合(他大学への転出)による平成27年3月31日付退職に伴う研究代表者の変更

12 変更に伴う影響及びその対応策

大谷節子教授は研究代表者であると共に本研究プロジェクトが敷く研究体制、即ち中世芸能(能・狂言)、近世芸能(浄瑠璃・歌舞伎)、民俗芸能の三本柱のうち、中世芸能研究統括の立場も担っていた。五ヶ年計画の大筋は、各分野の研究内容を考慮して、初年度および二年目(25・26年度)は中世芸能、三年目(27年度)は近世芸能、四年目(28年度)は民俗芸能を重点に据え、それぞれの成果を踏まえた総括を最終年度(29年度)に予定している。中世芸能分野については、平成26年11月に国際研究集会「見つめる能面・能面を見つめる」の開催を終え、順調に研究が進展しており、大谷教授は引き続き、学外メンバーとして当該(研究)課題を担っていくことになるが、中世芸能分野の研究統括者の転出は、組織構成上、大きな問題となる。その対応として、中世芸能研究において大谷教授と同等以上の学識経験・研究業績を有する人物の後任人事を平成27年度中におこなうとともに、研究代表者には、計画初年度から民俗芸能研究統括の任を担ってきた川森博司古典芸能研究センター長を当てる体制整備をおこなうことにしたい。なお、中世芸能研究分野を中心に学外参加研究者の補充も同時に図り、研究体制をより充実させる所存である。

本学は、古典文学の舞台となった多くの史跡をのこす須磨・明石の地にあり、文学部開設時(1969年)より国文学科・史学科を中心に第一線の古典文学・歴史・民俗学の研究者を有し、教育・研究を推進し、関連資料の収集も行った。中でも、特に古典芸能研究において他に類のない優れた研究条件が整ったため、平成13年度に古典芸能研究センターを開設し、本学における人文科学研究の先端に位置付けて、調査・研究を行いつつ、施設を学外へも開放し、社会への学的貢献を行ってきた。本プロジェクトでは、本センターのこれまでの蓄積を横断的総合的に再組織化することで、古典芸能の横断的総合的研究の拠点としての更なる発展を目指している。今回の大谷教授の転出は突発的な事態であるが、古典芸能研究センターを本学の研究の先端に位置づける姿勢にはいささかのゆるぎもない。速やかに学内外の補充人事を行うことにより(詳細別紙)、研究代表者の変更による影響を最小限にとどめ、研究体制の更なる充実を図っていく。

作成担当者連絡先: 山崎 敦子 神戸女子大学古典芸能研究センター事務室・課長補佐 電話(078)231-1061

<留意事項>

1. 本変更等届は、事業選定時の構想調書に記載された参加研究者の変更(追加・辞退を含む)について作成し、提出してください。また、変更後の研究者の研究プロジェクトに関連する過去5年間の主な研究業績を添付してください(様式自由)。
2. 参加研究者の変更等はやむを得ない場合に限られます。
3. 本変更等届のタイトルにおいて、変更・追加・辞退のいずれかに○を付してください。
4. 「6 研究プロジェクト名」欄は、選定を受けた事業名を記載してください。1事業において複数の研究テーマを実施している場合は、該当するテーマ名まで記載してください。

・変更に伴う影響及びその対応策（別紙）

大谷節子は中世芸能分野の研究統括を継続するが、平成27年度より学外メンバーとなるため、平成28年度からは中世芸能分野を専門とする新たな専任教員を任用し、協力して研究統括に当たれる体制を準備する。研究代表者については、平成27年度より、現在、民俗芸能分野の研究統括を担当している川森博司が担当する。

中世芸能分野については、平成27年度より新たなメンバーとして、長田あかね（神戸女子大学古典芸能研究センター非常勤研究員）、阿部泰郎（名古屋大学大学院文学研究科教授）、川崎剛志（就実大学人文科学部教授）を加え、大谷節子の転出に伴う不足面を補いつつ、さらなる充実を図る。新メンバーは、中世の宗教文献・図像資料について深い造詣を持ち、伊藤正義文庫・志水文庫の文献および図像資料の整理・分析・活用において、より深めた研究の進展が期待される。

近世芸能分野については、平成27年度より神戸女子大学文学部教授として着任する井上勝志を新たなメンバーに加え、さらなる充実を図る。井上氏は近松門左衛門研究の最前線にいる研究者であり、専任教員として近世芸能分野をリードしていく役割を期待している。

民俗芸能分野ならびに沖縄祭祀研究分野については、小栗栖健治（元 兵庫県立博物館館長補佐）と久万田晋（沖縄県立芸術大学附属研究所教授）を新たなメンバーに加え、さらなる充実を図る。小栗栖氏は兵庫県の民俗芸能の現場に最も詳しい人物であるとともに、民俗芸能および祭礼の写真記録の整理・活用についての作業を進行しており、本学の喜多文庫民俗芸能資料を補充する形での研究の進展が期待される。久万田氏は長年の現地調査に基づいて沖縄の民俗芸能研究を体系的に進めている優れた研究者であり、当センターの沖縄祭祀資料データベースの充実に向けて、連携して研究を進めていく予定である。

[その他、恵阪悟は転出により学外メンバーとなる。また、中村平は転出により海老久人（神戸女子大学文学部教授）と交替する]

以上の変更を図示すると別紙「新研究体制」のようになる。上記のように、研究代表者大谷節子の転出に伴う影響を十分に補い、それぞれの研究分野の質をさらに高めていくかたちで、学内外のメンバーの補充をおこなうことになるので、研究プロジェクトの残り3年の事業の推進に支障はなく、さらに充実させたレベルで研究基盤形成を推進していくことができる体制を準備している。

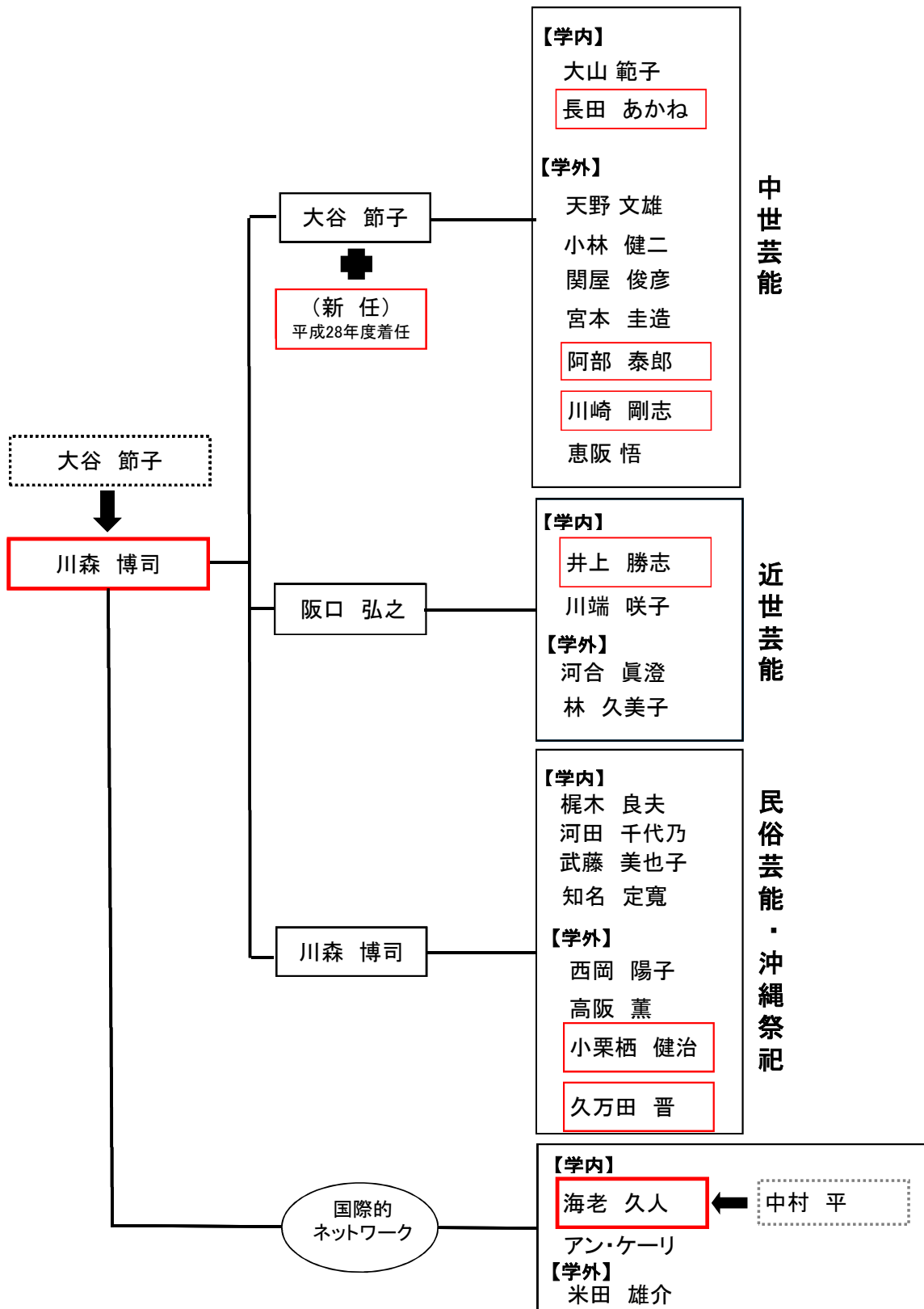
新研究体制

…変更
 …追加
 …辞退

研究代表者

分野別統括者

参加研究者



法人番号	281017
プロジェクト番号	S1311048

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

このプロジェクトは、本学古典芸能研究センターが所蔵する能・狂言、浄瑠璃、歌舞伎、民俗芸能、沖縄祭祀に関する貴重な資料を活用して、古典芸能の始原と変遷を解明するための研究拠点を形成することを目的としている。当センターは、所蔵する資料の貴重性と研究スタッフの潜在力において、この5年間の支援事業のプロジェクトを受けて計画的・重点的に研究基盤を整備していくことの意義は大きいと考えている。

具体的には、資料の整理と公開を進めるとともに、平成26年度以降、年1度の公開研究会を実施し、その成果を単行本および論文として刊行する。それによって、研究成果を関連研究者の間で共有できるようにし、研究拠点としての位置づけを高めていくことを目指す。また、公開研究会の時期に合わせて、古典芸能研究センターの展示室において関連資料の展示をおこなうことにより、資料の公開を進めていく。

国際化については、26年度と29年度の公開研究会を国際的なものとするとともに、研究者レベルでの国際的な研究交流のネットワーク作りを進めていく。

(2) 研究組織

中世芸能(能・狂言)、近世芸能(浄瑠璃・歌舞伎)、民俗芸能(祭祀・法会を含む)の三つの柱を立て、各分野に専任教員(兼任研究員)、非常勤研究員、客員研究員など総勢28名を配して、研究を推進している。

研究代表者はプロジェクト全体の取りまとめの役割を担い、三つの専門分野の統括者によるプロジェクト運営委員会を主宰している。三つの専門分野の統括者はその分野の研究者と相互に連絡を取りながら、各年度の公開研究会を企画・実行し、その研究成果を刊行する任を担っている。

平成26年度には中世芸能分野、平成27年度には近世芸能分野、平成28年度には民俗芸能分野に、それぞれ軸を置いた公開研究会を実施し、最終年度である平成29年度には三つの分野を統合した公開研究会を実施することにより、文字どおり日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成を目指している。

研究支援体制としては、本学の運営母体である行吉学園の全面的なバックアップ体制のもとに、古典芸能研究センターの事務担当者が研究代表者と緊密な連携をとりながら、プロジェクトの円滑な進行を支えている。

共同研究機関等との連携状況としては、古典芸能の文献学的研究において国文学研究資料館と、仮面の研究において国立民族学博物館と、古典芸能と民俗芸能の相互関係の研究において国立歴史民俗博物館と、古典芸能の演劇的側面の研究について京都造形芸術大学舞台芸術研究センターと、沖縄の祭祀・芸能研究について沖縄県立大学附属研究所と、能楽の研究において法政大学能楽研究所と、古典芸能の身体技法の研究について京都市立大学日本伝統音楽研究センターと、それぞれ連携して研究を進めている。

また、本学の姉妹提携校ハワイ大学マノア校の演劇学部教授ジュリー・イエッツィー氏には平成26年度に古典芸能研究センターの客員研究員を委嘱し、連携して研究を進めた。

(3) 研究施設・設備等

・研究施設

名称: 神戸女子大学古典芸能研究センター

所在地: 神戸市中央区中山手通2-23-1 神戸女子大学教育センター2階

使用総面積: 710 m²

利用者数:

平成25年度: 学内 103名 / 学外 127名

法人番号	281017
プロジェクト番号	S1311048

平成 26 年度:学内 111 名/学外 291 名

平成 27 年度:学内 45 名/学外 338 名

注)本利用者数は来室者記名簿及び記名票に拠るもので、所員の利用や講演会や展示等、特別な催しの際の来室者数は含めていない

・研究設備

設置(所蔵)年度と名称:

平成 25 年度:資料保管設備 一式

展示設備 一式

平成 26 年度:奈良絵本 謡本 八帖

平成 27 年度:けいせい七堂伽藍 一冊

利用時間:各設置(所蔵)後常用使用

(4)進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<現在までの進捗状況及び達成度>

まず、今回の補助金を受けての古典芸能研究センターのリニューアル完成のお披露目を兼ねて、平成 26 年 6 月 7 日に神戸女子大学古典芸能研究センターリニューアル記念講演会「古典芸能研究の未来」を開催し、中世芸能、近世芸能、民俗芸能の三つの分野から講演をおこなった(大谷節子「中世芸能の視点から」能『高砂』の解釈史」* 1、阪口弘之「近世芸能の視点から」作者と編者—寛文期江戸浄瑠璃と書肆—」* 2、川森博司「民俗芸能の視点から」来訪神儀礼と『はじまりの芸能』」* 3、以上の内容は『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9 号に掲載)。この企画は、「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」を旨とする本学にとって、全体的なコンセプトを示す機会となった。

年度ごとの公開研究会については、第 1 回目は平成 26 年 11 月 29 日、30 日の両日に国際シンポジウム「見つめる能面・能面を見つめる」を開催し、その成果は『能面を科学する—世界の仮面と演劇—』(勉誠出版、平成 28 年 3 月、329 頁)* 4 という単行本の形で公刊した。国際的かつ学際的な視野から各分野の第一線の研究者による論考を集約するとともに、能楽シテ方、金剛流宗家の金剛永謹氏による「演者の視点から見る能面」* 5 という論考も含めることによって、まさに能楽の横断的総合的研究の成果を示すものとなっている。

この公開研究会にあわせて、古典芸能研究センター展示室において「仮面の芸能・人形の芸能」と題する特別展を開催した。また、この展示においては、国際化を意識して、日本語・英語の両言語による展示解説文を作成した。

第 2 回目は、平成 27 年 11 月 28 日に「説経節—情念の語り物—」と題する公開研究会を実施した。あわせて、「説経『おぐり』の世界—説経節の広がり—」という企画展を古典芸能研究センター展示室において開催した。ここでは当センター所蔵(志水文庫)の資料も活用した。さらに古典芸能研究センター特別講座においても「説経節—人は神仏に何を托そうとするのか—」と題する 6 週連続の講座を平成 27 年 10 月 14 日から 11 月 18 日にかけて実施した。公開研究会の成果刊行物(『説経節—人は神仏に何を托そうとするのか—(仮題)』)については、平成 29 年 2 月の刊行に向けて準備中である。

国際的な連携に関しては、平成 25 年 11 月に大谷節子、川森博司、海老久人の 3 名がハワイ大学マノア校を訪問し、演劇学部のジュリー・イエッツィー教授と面会することから、このプロジェクトについての協力関係をスタートさせ、平成 26 年度には客員研究員を委嘱し、上記「見つめる能面・能面を見つめる」の国際シンポジウムにもコメンテーターとして登壇いただき、成果刊行物『能面を科学する』に「仮面と化粧、博物館、そして誤解をめぐる考察」* 6 という論考を寄稿していただいた。

また、平成 26 年 11 月の国際シンポジウムには、ケルン大学演劇学研究所長のピーター・

法人番号	281017
プロジェクト番号	S1311048

W・マルクス教授に「ヨーロッパの仮面と仮面劇」*7について講演いただく予定であったが、当人の急病により来日がかなわなかった。かわって、英文原稿をパワーポイントで示しながら、その日本語訳を読み上げる形となったが、講演原稿をもとにした論考を『能面を科学する—世界の仮面と演劇—』に収録することができた。

韓国に関しては、韓国世宗大学校の李応寿教授(韓日芸能研究所長)に「韓国の仮面と仮面劇」*8について講演いただき、これをもとにした論考も『能面を科学する』に収録している。

また、ハワイ在住の能面研究家・収集家のスティーヴン・マーヴィン氏にコメンテーターとして登壇いただき、その後の考察を加えた論考「能面模写とその図像的特徴、および能面制作に関するさらなる考察」*9を『能面を科学する』に収録した。

平成29年2月刊行予定の成果刊行物『説経節—人は神仏に何を托そうとするのか—』(仮題)には、フランクフルト大学と連携してフォーレッチ・コレクション(フランクフルト市立工芸博物館)所蔵資料の翻刻および解説を掲載する予定である。

研究代表者の川森は平成26年2月と平成27年2月に韓国国立民俗博物館(ソウル市)を訪問し、民俗芸能の側面からの日韓比較について研究の連携を模索している。韓国では平成27年に無形遺産学会が発足し、その中ではユネスコの無形遺産である古典芸能・民俗芸能がテーマとなるので、川森はこの学会に日本側の副会長として加わり、研究上の連携を模索しているところである。

所蔵資料の整理・公開については、平成25年度に伊藤正義文庫「電子版和書目録」を作成し、ホームページ上に公開した。平成27年度に予定していた伊藤正義文庫貴重書のWEB公開については、より包括的な「和書デジタルアーカイブ」という形に拡大して公開すべく準備中である。また、収蔵資料を活用した展示として、公開研究会に関わるもののほかに、「志水文庫の浮世絵」(平成26年4~5月)、「〈写真展〉沖縄の祭祀 1978-2013」(平成26年8~11月)、「涅槃図の世界」(平成27年2~4月)、「来迎の姿—練供養と来迎図—」(平成27年5~6月)、「京の謡文化とその広がり—京観世岩井家を中心に—」(平成27年7~8月)、「ワキ方福王流の謡と歴史—江崎家旧蔵資料を中心に—」(平成28年2~3月)を開催している。

沖縄祭祀資料データベースについては、平成27年度に英語版を作成し、ホームページ上で公開した(まだ部分的で全体の完成に向けて作業中である)。また、データ補充のための追跡調査を、沖縄祭祀資料データベースおよび喜多文庫民俗芸能資料データベースについて、継続しておこなっている。

以上、『能面を科学する—世界の仮面と演劇—』の刊行年度が1年遅れたこと、伊藤正義文庫貴重書のWEB公開がより包括的なシステム構築のために平成28年度以降に遅れていることを除いて、基本的に当初の計画を達成していると考えられる。

<特に優れた研究成果>

現在までの成果として、以下の2冊を挙げることができる。

- ・『能面を科学する』(勉誠出版、平成28年、329頁)
- ・『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9号(平成27年)
 - リニューアル記念講演会「古典芸能研究の未来」の内容を掲載
 - 大谷節子「〈中世芸能の視点から〉能「高砂」の解釈史」
 - 阪口弘之「〈近世芸能の視点から〉作者と編者—寛文期江戸浄瑠璃と書肆—」
 - 川森博司「〈民俗芸能の視点から〉来訪神儀礼と「はじまりの芸能」」

<問題点とその克服方法>

上の進捗状況で示したように、特に大きな問題点は生じていないが、「和書デジタルアーカ

法人番号	281017
プロジェクト番号	S1311048

イブ」の公開に向けた作業に、より力を入れて取り組んでいく計画を立てている。

<研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)>
公開研究会の成果を公刊することにより、一般読者へ研究成果が還元されることが期待される。

<今後の研究方針>

平成 28 年 11 月 26 日に「伝統と現代をつなぐもの—民俗芸能と古典芸能—」と題する公開研究会を開催する。ここでの研究発表と討論の内容は『神戸女子大学古典芸能研究センター—紀要』11 号に掲載する予定である。

平成 29 年 2 月には成果刊行物として『説経節—人は神仏に何を托そうとするのか—』(仮題、和泉書院)を刊行する予定である。

構想調書に記載している「東アジア圏との民俗芸能の比較研究」については、公開研究会「伝統と現代をつなぐもの—民俗芸能と古典芸能—」に沖縄の民俗芸能の位置づけを一つの大きな主題として盛り込むとともに、東アジア人類学会(East Asian Anthropological Association)の 2016 年研究大会(10 月 15~16 日、北海道大学)に研究代表者が参加することにより、韓国・中国・台湾の研究者と直接交流して、より実質的な研究連繋のあり方を模索する計画を立てている。

プロジェクトの最終年度に当たる平成 29 年度には、志水文庫の神道・仏教版画、伊藤正義文庫の貴重書を含めた「和書デジタルアーカイブ」の WEB 上での本格的な公開を実現し、「かしら文庫目録」も WEB 上で公開する。また、「志水文庫貴重書解題」を含めた『貴重書叢刊』のシリーズの 1 冊目の刊行を始めることを目ざしている。

平成 29 年 11 月には、プロジェクトのまとめとして「古典芸能の始原と変遷」をテーマとした国際研究集会の開催を計画している。

<今後期待される研究成果>

形として残されるのは、すでに刊行した『能面を科学する—世界の仮面と演劇—』(勉誠出版、平成 28 年)と、『説経節—人は一人は神仏に何を托そうとするのか—』(仮題、和泉書院、平成 29 年)および『神戸女子大学古典芸能研究センター—紀要』9~12 号所収の論考、そして WEB 上の「和書デジタルアーカイブ」、バージョンアップされた沖縄祭祀資料データベースおよび喜多文庫民俗芸能資料データベースである。また、無形のものとして、このプロジェクトの 5 年間に作り出される研究上のネットワークが、研究拠点の形成において、きわめて重要なものである。

この有形の成果と無形の成果を総合して、神戸に日本古典芸能の横断的総合的研究拠点を有効な形で形成していくことを目ざしている。

<プロジェクトの評価体制(自己評価・外部評価を含む。)>

自己評価については、中世芸能分野、近世芸能分野、民俗芸能・沖縄祭祀分野それぞれの学内担当者 3 名(樹下、井上、川森)による運営委員会を組織し、月例の会議で進捗状況の点検をおこなうとともに、大学全体の部局長会および文学部教授会において定期的に進捗状況を報告し、より広い視野から自己評価をおこなう体制を整えている。

また、外部評価については、中世芸能、近世芸能、民俗芸能・沖縄祭祀それぞれの分野の学外の専門研究者を 1 名ずつ(計 3 名)を依頼して、外部評価委員会を組織する作業を進めているところである。

自己評価については随時フィードバックをおこなっているが、外部評価を含めた評価結果を本年 10 月にまとめる方向で作業を進めているところである。

法人番号	281017
プロジェクト番号	S1311048

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|------------------|------------------|-----------------|
| (1) <u>古典芸能</u> | (2) <u>能面</u> | (3) <u>説経</u> |
| (4) <u>人形浄瑠璃</u> | (5) <u>民俗芸能</u> | (6) <u>沖縄祭祀</u> |
| (7) <u>仏教版画</u> | (8) <u>発生的視点</u> | |

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年(西暦)について記入してください(左記の各項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

<中世芸能分野>

- 1 大谷節子 2015 「〈中世芸能の視点から〉能「高砂」の解釈史」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9号、pp.1-13、査読無
*1
- 2 大谷節子 2014 「世阿弥の文学—ワキの視座から読む修羅の能—」『観世』81巻5号、pp.26-33、査読無
- 3 大谷節子 2014 「世阿弥自筆本「カシワザキ」以前—宗牧独吟連歌注紙背「柏崎」をめぐる—」『国語国文』83巻12号、pp.1-23、査読有
- 4 川崎剛志(Carina Roth 英訳) 2015 「The Invention and Reception of the Mino' odera engi」、Japanese Journal of Religious Studies 42(1)、pp.133-155、査読有
- 5 川崎剛志 2014 「「当麻寺流記」の〈発見〉」、『中世文学』59、pp.54-62、査読有
- 6 川崎剛志 2014 「金峯山の埋経と役行者の行道」、『説話文学研究』49、pp.69-72、査読有
- 7 小林健二 2016 「絵画から見る楽劇史—研究資料としての能絵—」『楽劇学』23号、pp.69-78、査読無
- 8 小林健二 2016 「宮崎文庫記念館蔵「敦盛」絵巻攷—翻刻と考察—」『かがみ』46号、pp.26-79、査読無
- 9 小林健二 2013 「能から物語草子へ—「玉井」と『かみよ物語』絵巻—」『國學院雑誌』114巻11号、pp.37-53、査読無
- 10 小林健二 2013 「屏風絵に描かれた能—香川県立ミュージアム「源平合戦図屏風」をめぐる—」『能と狂言』11号、pp.3-14、査読無
- 11 関屋俊彦 2015 「狂言歌謡—《呼声》《蝸牛》に寄せて—」、『国立能楽堂』、384号、pp.19-22、査読有
- 12 関屋俊彦 2014 「梅若座盛衰史試案」、『関西大学東西学術研究所 研究報告書 日本文学・芸能研究班』、平成21年～24年度、pp1-9、査読有
- 13 長田あかね 2015 「資料紹介 長命茂兵衛家文書(一)」、『芸能史研究』211号、pp.33-51、査読有
- 14 長田あかね 2015 「資料紹介 神戸女子大学図書館蔵「江戸城謡初之図」」、『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9号、pp.88-105、査読無
- 15 宮本圭造 2016 「笛役者伊藤安中伝」『国立能楽堂調査研究』10号、pp.11-22 査読有
- 16 宮本圭造 2016 「面打井関考」『能楽研究』40、pp.61-133、査読無
- 17 宮本圭造 2016 「伏見稻荷大社御旅所の能舞台」『朱』59、pp.124-153、査読無
- 18 宮本圭造 2015 「大和の村落祭祀と能」『万葉古代学研究年報』13、pp.65-92、査読無
- 19 宮本圭造 2015 「面打ホウライ考」『能楽研究』39、pp.1-20、査読無
- 20 宮本圭造 2014 「『仮面譜』の成立」『能楽研究』38、pp.35-68、査読無
- 21 宮本圭造 2014 「「能操り」覚書」『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』8号、pp.67-73、査読無

<近世芸能分野>

- 1 井上勝志 2016 「奥浄瑠璃本の依拠本としての六段本—佐藤理作(利作)旧蔵書から—」『神女大國文』27号、pp.26-37、査読無

法人番号	281017
プロジェクト番号	S1311048

- 2 井上勝志 2013 「相模椽藤原吉勝正本『善光寺堂供養』紹介と翻刻』『近松研究所紀要』24号、pp.81-101、査読有
- 3 井上勝志 2013 「作者近松の売り出し』『やそしま』7号、pp.30-48、査読無
- 4 河合眞澄 2015 「役者評判記の挿絵—上演実態の反映—』『国語と国文学』92巻9号、pp.3-19、査読有
- 5 河合眞澄 2015 「役者評判記の戦略—八文字屋と江島屋—』『演劇研究会会報』41号、pp.13-19、査読無
- 6 川端咲子 2015 「『二十五菩薩功德集』について』『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9号、pp.106-125、査読無
- 7 川端咲子 2014 「浄瑠璃『三世相』における工夫』『女子大國文』25号、pp.13-22、査読無
- 8 阪口弘之 2015 「〈近世芸能の視点から〉作者と編者—寛文期江戸浄瑠璃と書肆』『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9号、pp.15-30、査読無 *2
- 9 阪口弘之 2014 「享保五年京都二の替り狂言本—自笑と其磧—』『藝能史研究』204、pp.1-28、査読有
- 10 阪口弘之 2013 「『清盛物語』の構想』『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』7号、pp.18-31、査読無

〈民俗芸能・沖縄祭祀芸能分野〉

- 1 小栗栖健治 2015 「伊勢・志摩の熊野観心十界曼荼羅』『西行学』6、pp.34-48、査読無
- 2 小栗栖健治 2015 「祭りの歴史と暮らし』『いひほ研究』7、pp.4-15、査読無
- 3 川森博司 2015 「〈民俗芸能の視点から〉来訪神儀礼と「はじまりの芸能」』『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9号、pp.31-36、査読無 *3
- 4 川森博司 2013 「〈インタビュー〉民俗芸能研究の背景—娘から見た喜多慶治—』『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』7号、pp.38-51、査読無
- 5 久万田晋 2016 「近現代における沖縄の民俗音楽・芸能の変遷過程—エイサーを事例として—』『現代グローバル社会における自律的島嶼社会モデルの構築と実践—島嶼地域研究・教育の拠点形成—』(文部科学省特別経費概算要求プロジェクト平成27年度成果報告書)琉球大学国際沖縄研究所、pp.207-224、査読無
- 6 久万田晋 2015 「戦後沖縄、二つの芸能コンクール』『神奈川大学評論』第82号、pp.136-139、査読無
- 7 久万田晋 2014 「沖縄音楽を俯瞰する』『多文化社会の文化的市民権』(平成23-25年度科学研究費補助金基盤研究B〈多文化社会におけるメディアの公共性と文化的市民権〉(研究代表者毛利嘉孝)研究プロジェクト)多文化メディア市民研究会、pp.97-101、査読無
- 8 高阪薫 2015 「沖縄祭祀の場と霊力—信仰の本質に迫る—』『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9号、pp.51-77、査読無
- 9 武藤美也子 2015 「石垣島・西表島祖納後追い調査報告』『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』9号、pp.84-87、査読無

〈図書〉

図書名、著者名、出版社名、総ページ数、発行年(西暦)について記入してください(左記の項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

〈中世芸能分野〉

- 1 神戸女子大学古典芸能研究センター編 2016 『能面を科学する—世界の仮面と演劇—』、勉誠出版、総頁329 *4
(4進捗状況・研究成果等で言及した収録論考
*5 金剛永謹 「演者の視点から見る仮面」 pp.57-64
*6 ジュリー・イェッツィー(川森博司訳) 「化粧と仮面、博物館、そして誤解をめぐる考察」 pp.173-177
*7 ピーター・W・マルクス(海老久人訳) 「ヨーロッパの仮面と仮面劇」 pp.67-92
*8 李応寿 「韓国の仮面と仮面劇」 129-148
*9 スティーヴン・マーヴン(海老久人訳) 「能面模写とその図像的特徴、および能面制作に関するさらなる考察」 pp.229-243)

法人番号	281017
プロジェクト番号	S1311048

- 2 大谷節子 2016 「狂言「釣狐」と『無門関』第二則「百丈野狐」(天野文雄編『禅からみた日本中世の文化と社会』を分担執筆)ペリかん社、印刷中、133-154 頁を分担)
- 3 大谷節子 2013 「「頼政」面を溯る—能・狂言面データベースの可能性—(楊曉捷・小松和彦・荒木浩編『デジタル人文学のすすめ』を分担執筆)勉誠社、総頁 239(263-283 を分担)
- 4 小林健二(編集) 2015 『金春安住集『歌舞後考録』『御用留』(能楽資料叢書2)、野上記念法政大学能楽研究所、総頁 260
- 5 小林健二(編著) 2014 『狂言絵 彩色やまと絵』(国文学研究資料館影印叢書6)、勉誠出版、総頁 139
- 6 小林健二 2014 「在外絵入り本研究の意義と展望」(人間文化研究機構・国文学研究資料館編『絵が物語る日本—ニューヨーク スペンサー・コレクションを訪ねて』を分担執筆)三弥井書店、総頁 360(9-22 を分担)
- 7 小林健二 2014 「物語絵の方法—スペンサー・コレクション蔵『呉越物語』絵巻をめぐる—」(人間文化研究機構・国文学研究資料館編『絵が物語る日本—ニューヨーク スペンサー・コレクションを訪ねて』を分担執筆)三弥井書店、総頁 360(43-53 を分担)
- 8 小林健二 2013 「絵画化された語り物の世界—「武文図屏風」をめぐる—」(人間文化研究機構・国文学研究資料館編『アメリカに渡った物語絵』を分担執筆)ペリかん社、総頁 264(194-205 を分担)
- 9 関屋俊彦 2015 『続狂言史の基礎的研究』、関西大学出版部、総頁 817
- 10 関屋俊彦 2014 「世阿弥と狂言師」(『観阿弥生誕 680 年 世阿弥生誕 650 年記念 世阿弥の世界』を分担執筆)京都観世会、総頁 102 (99-100 を分担)
- 11 関屋俊彦編 2013 『伊藤正義 中世文華論集』第2巻、和泉書院、総頁 612(稲田秀雄氏と編集)
- 12 長田あかね 2014 「観世元章と大徳寺派僧の交流—萬輝宗旭を中心に—」(松岡心平編『観世元章の世界』を分担執筆)、檜書店、総頁 566(37-54 を分担)
- 13 宮本圭造 2016 「能面の古層—神楽面から見えること—」(神戸女子大学古典芸能研究センター編『能面を科学する』を分担執筆)勉誠出版、総頁 329(179-205 を分担)
- 14 宮本圭造 2015 「教養としての謡—室町文化はいかに継承されたか—」(鈴木健一編『形成される教養』を分担執筆)勉誠出版、総頁 464(.97-127 を分担)
- 15 宮本圭造 2015 「野上豊一郎の能面研究」(伊海孝充編『野上豊一郎の能楽研究』を分担執筆)法政大学能楽研究所、総頁 179(87-102 を分担)
- 16 宮本圭造 2013 「謡講釈の世界」(鈴木健一編『浸透する教養』を分担執筆)勉誠出版、総頁 456(163-192 を分担)

〈近世芸能分野〉

- 1 阪口弘之 2015 「街道の牛若物語」(鈴木健一編『形成される教養』を分担執筆)勉誠出版、総頁 453 (395-421 を分担)
- 2 阪口弘之(高木浩氏との共編) 2015 『義太夫年表 昭和篇第三巻』、和泉書院、総頁 660
- 3 阪口弘之(高木浩氏との共編) 2013 『義太夫年表 昭和篇第二巻』、和泉書院、総頁 573
- 4 信多純一・川崎剛志 2014 『現代語訳 完本小栗』、和泉書院、総頁 115
- 5 林久美子 2015 「浄瑠璃にみる神道思想」(田中優子編『日本人は日本をどうみてきたか—江戸から見る自意識の変遷—』を分担執筆)、笠間書院、総頁 243(193-203 を分担)
- 6 林久美子 2014 「目録と解説:「近世文学,芸能」」(女性史総合研究会編『日本女性史研究文献目録 1868-2002』第V巻解説V-8を分担執筆)、東京大学出版会、総頁 190(110-113 の解説 と目録データを分担)
- 7 林久美子 2013 「『日本武尊吾妻鑑』と『南総里見八犬伝』のトランスジェンダー」(安達太郎、野村幸一郎、林久美子編『表象のトランスジェンダー』を分担執筆)新典社、総頁 221(113-146 を分担)

法人番号	281017
プロジェクト番号	S1311048

〈民俗芸能・沖縄祭祀芸能分野〉

- 1 小栗栖健治 2014 「「三ツ山大祭」のすべて」(播磨学研究所編『三ツ山大祭と祭りのこころ』)を分担執筆) 神戸新聞総合出版センター、総頁 237(23-50 を分担)
- 2 小栗栖健治 2013 『地獄絵の世界』、河出書房新社、総頁 128
- 3 小栗栖健治 2013 「「熊野観心十界曼荼羅祭」の社会的受容」(加須屋誠編『『図像解釈学—権力と他者(仏教美術論集4)』)を分担執筆』竹林舎、総頁 461(155-173 を分担)
- 4 久万田晋 2015 「第10章 芸能・娯楽—本市における芸能と娯楽の概要と特徴—」(『沖縄市史 第三巻民俗編 冊子編』)を分担執筆) 沖縄市、総頁 1526(140-164 を分担)
- 5 久万田晋 2015 「第10章第2節 民俗芸能・民謡」(一部遠藤美奈と共著)(『沖縄市史 第三巻民俗編 冊子編』)を分担執筆) 沖縄市、総頁 1526(1031-1039-を分担)
- 6 久万田晋 2015「第10章第4節 芸能娯楽の戦後の展開」(『沖縄市史 第三巻民俗編 冊子編』)を分担執筆) 沖縄市、総頁 1526(1059-1067 を分担)
- 7 知名定寛 2015 「近世琉球の靈魂観と救済」(島藺進・高埜利彦・林淳・若尾政希編『シリーズ日本人と宗教 近世から近代へ 第六巻 他者と境界』)を分担執筆) 春秋社、総頁 280(205-236 を分担)
- 8 知名定寛 2014 「近世琉球仏教の二宗体制について」(島村幸一編『琉球 交叉する歴史と文化』)を分担執筆) 勉誠出版、総頁 441(365-383 を分担)

〈学会発表〉

学会名、発表者名、発表標題名、開催地、発表年月(西暦)について記入してください(左記の項目が網羅されていれば、順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

- 1 大谷節子 「福王謡本二題—盛忠本・真名謡本—」、能楽学会、大阪大学、2016年3月
- 2 大谷節子 「京観世と片山家」、日本演劇学会、京都外国語大学、2014年11月
- 3 小栗栖健治 「伊勢・志摩の熊野観心十界曼荼羅」、西行学会、東海学園大学名古屋キャンパス、2014年8月
- 4 河合眞澄 「役者評判記の挿絵—上演実態の反映—(その二)」、演劇研究会十月例会、同志社大学(京都市)、2014年10月
- 5 河合眞澄 「歌舞伎の女性たち—『曾根崎心中』のおはつを中心に—」、「文学とジェンダー」ミニシンポジウム、大阪府立大学(堺市)、2013年11月
- 6 川崎剛志 「役行者の祖師化と霊山の時空の再構成」、第14回ヨーロッパ日本研究協会国際会議、リュブリャナ大学(スロベニア)、2014年8月
- 7 川崎剛志 「『当麻寺縁起』の〈発見〉」、中世文学会秋季大会、ノートルダム清心女子大学(岡山市)、2013年10月
- 8 川森博司 「民俗学の脱土着化への試みと課題」、日本民俗学会第881回談話会(年会プレシンポジウム「世界のなかの民俗学」)、関西学院大学大阪梅田キャンパス、2015年7月
- 9 川森博司 「現代民俗誌への模索と課題—『高砂市史』における試みから—」、現代民俗学会2016年度年次大会、東京大学東洋文化研究所、2016年5月
- 10 久万田晋 「近現代における沖縄の民俗音楽・芸能の変遷過程—エイサーを事例として—」、琉球大学国際沖縄研究所「現代グローバル社会における自律的島嶼社会モデルの構築と実践」プロジェクト・公開ワークショップ「交差する地域文化とイノベーション—保護から自律的創生へ—」、沖縄県立博物館・美術館(那覇市)、2016年1月
- 11 久万田晋 「沖縄の民俗芸能・ポピュラー音楽にみるローカルとグローバル」、日本音楽表現学会第13回(美ら島)大会シンポジウム〈沖縄音楽のローカルとグローバル〉、沖縄県立芸術大学(那覇市)、2015年6月

法人番号	281017
プロジェクト番号	S1311048

- 12 久万田晋 「沖縄の民俗芸能の担い手と学校」、大学共同利用機関法人人間文化研究機構連携研究〈文化遺産の復興に向けたミュージアムの活用のための基礎的研究—大学共同利用機関の視点から〉関連フォーラム〈学校芸能の現在(いま)〉、国立民族学博物館(吹田市)、2014年11月
- 13 小林健二 司会・パネリスト「絵画からみた楽劇史」、楽劇学会 シンポジウム「能の絵画資料」、国立能楽堂、2015年6月
- 14 小林健二 シンポジウム「変革期における幸若舞曲の展開—絵画化を軸として—」司会・コーディネイター、第14回ヨーロッパ日本研究協会国際会議、リュブリャナ大学(スロベニア)、2014年8月
- 15 小林健二 パネリスト「酒吞童子物語の成立と展開—香取本『大江山絵詞』と能《大江山》—」、コロンビア大学 ワークショップ、コロンビア大学、2013年11月
- 16 関屋俊彦 「沼艸雨氏と能楽観賞会について—関大沼氏旧蔵書におよぶ—」、能楽学会、大阪大学、2014年12月

＜研究成果の公開状況＞(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等
ホームページで公開している場合には、URLを記載してください。

＜既に実施しているもの＞

特になし。

＜これから実施する予定のもの＞

特になし。

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。
※ 論文や学会発表等になじまない研究である場合は、本欄を充実させること

特になし。

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

＜「選定時」に付された留意事項＞

留意事項が付されていない場合は「該当なし」と記載してください。

デジタル化が目的ならばタイトルとの整合性が無い。また、デジタル化でどのような研究が可能になるのかを示すべき。

＜「選定時」に付された留意事項への対応＞

付された留意事項に対し、どのような対応策を講じ、また、それにより、どのような成果があがったか等について、詳細に記載してください。

予定どおりデジタル化の作業を進めているが、それを単にホームページ上で公開するにとどまらず、4で示したとおり、そのデータを活用した研究会や連続講座を開催している。それによって、本センターを拠点とした研究者のネットワーク作りが進んでいる。

法人番号	281017
プロジェクト番号	S1311048

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成25年度	施設	59,325	30,005	29,320	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	15,444	5,148	10,296	0	0	0	
	研究費	20,155	10,155	10,000	0	0	0	
平成26年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	4,950	1,650	3,300	0	0	0	
	研究費	18,503	10,153	8,350	0	0	0	
平成27年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	4,950	1,650	3,300	0	0	0	
	研究費	17,009	8,659	8,350	0	0	0	
総額	施設	59,325	30,005	29,320	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	25,344	8,448	16,896	0	0	0	0
	研究費	55,667	28,967	26,700	0	0	0	0
総計	140,336	67,420	72,916	0	0	0	0	

17 施設・装置・設備の整備状況(私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
神戸女子大学 古典芸能研究センター	平成25年度	710m ²	9	不特定多数	59,325	29,320	私学助成

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

(改修)537 m²

法人番号	281017
プロジェクト番号	S1311048

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置) 対象なし				h h h h h			
(研究設備) 展示設備一式	平成25年度	W2175×D650×H2500他	1	常時 h	8,998	5,999	私学助成
資料保管設備一式	平成25年度	W944×D484×H2247他	1	常時 h	6,446	4,297	私学助成
奈良絵本謡本 八帖	平成26年度		1	常時 h	4,950	3,300	私学助成
けいせい七堂伽藍 一冊	平成27年度		1	常時 h	4,950	3,300	私学助成
(情報処理関係設備) 対象なし				h h h h h			

18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成 25 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な用途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	7,320	閲覧機・椅子、パソコン	5,859
光熱水費	0		
通信運搬費	220	紀要送料、チラシ送料	156
印刷製本費	868	紀要、チラシ	747
旅費交通費	1,363	ハワイ大学出張、伊是名 豊年祭調査	983
報酬・委託料	3,169	書籍移動、書架設置、燻蒸	3,017
(修繕費、謝金、経費、消耗図書費他)	1,957	修理製本、講師謝礼	1,079
計	14,897		
アルバイト関係支出			
人件費支出	256	臨時的任用職員(非常勤研究員)	時給 1,500円, 年間時間数 144時間, 1名
	1,051	臨時的任用職員(事務補助)	時給 950円, 年間時間数 987時間, 1名
教育研究経費支出	0		
計	1,307		
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	1,702	コピー機、ファイルサーバ	1,702
図書	2,249	資料	2,249
計	3,951		
研究スタッフ関係支出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	0		
研究支援推進経費	0		
計	0		

法人番号	281017
プロジェクト番号	S1311048

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	4,308	パソコン、サインボード類	1,596
光 熱 水 費	0		
通 信 運 搬 費	459	チラシ送料、能面運搬料	346
印 刷 製 本 費	1,330	紀要、チラシ	1,128
旅 費 交 通 費	1,919	国際研究会開催関連旅費、石垣・西表島調査	1,560
報 酬 ・ 委 託 料	2,646	資料撮影、国際研究会開催関連翻訳・通訳	1,867
(修繕費、謝金、雑費、消耗図書費他)	2,065	修理製本、講師謝礼	1,080
計	12,727		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出	1,351	臨時的任用職員(非常勤研究員)	時給 1,500円, 年間時間数 840時間, 1名
	1,311	臨時的任用職員(事務補助)	時給 950円, 年間時間数 1290時間, 2名
教育研究経費支出	0		
計	2,662		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	2,095	可搬方ステージ、輪転機他	2,095
図 書	1,019	資料	1,019
計	3,114		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	0		
研究支援推進経費	0		
計	0		

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	1,860	簡易帙・中世紙保存用品、棚板・棚受	486
光 熱 水 費	0		
通 信 運 搬 費	301	紀要送料、チラシ送料	193
印 刷 製 本 費	1,123	紀要、チラシ	193
旅 費 交 通 費	427	国会図書館他資料調査旅費、公開研究会講師宿泊費	250
報 酬 ・ 委 託 料	2,979	資料撮影、資料購入仲介・手数料	2,436
(修繕費、謝金、雑費、消耗図書費他)	2,847	成果刊行物買取、修理製本	1,397
計	9,537		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出	5,093	臨時的任用職員(非常勤研究員)	時給 1,500円, 年間時間数 2762時間, 3名
	1,038	臨時的任用職員(事務補助)	時給 950円, 年間時間数 939時間, 1名
教育研究経費支出	0		
計	6,131		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		
図 書	1,341	資料	1,341
計	1,341		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	0		
研究支援推進経費	0		
計	0		